

お台場島の島（2島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（7月）報告書

2024年8月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内防波堤において鳥類の利用状況や経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和6年7月12日(金)	8:00~14:00	雨時々曇

4. 調査方法

各調査項目において、倍率8~10倍程度の双眼鏡や倍率20~60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

(1) 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(2) ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1~2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査(※調査回の定義については後述する)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は、前回調査から81日間であった(第9回春季調査～第9回夏季調査)。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 9 回の夏季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種 *①: 準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②: 人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、7 目 15 科 18 種が確認された (表 4)。
- 確認種の約半数が水域及びその周辺に生息する種であり、10 種 (スズガモやアオサギ、ウミネコ等) が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 2 種 (シジュウカラ及びカワラヒワ) が確認されたほか、都市部で見られる種として 3 種 (ツバメ、ムクドリ及びスズメ)、様々な環境で見られる種として 3 種 (キジバト、トビ及びハシブトガラス) が確認された (表 4)。
- 当該地域における渡り区分別にみると、留鳥 (旧防波堤で一年中見られる種) の確認種数が最も多く、15 種 (カルガモやイソシギ、シジュウカラ等) が確認された。次いで夏鳥 (島の島で夏に見られる種) が 2 種 (コチドリ及びツバメ)、冬鳥 (旧防波堤で冬に見られる種) が 1 種 (スズガモ) 確認された。
- 重要種は、スズガモ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、イソシギ、ウミネコ及びトビの合計 7 種が確認された (表 4)。島内では、護岸及び止水域で採餌や休息するコチドリ、イソシギが確認された。島外では、採餌や遊泳するスズガモ、海域で飛翔するウミネコが確認された。島内外では、上空を通過するダイサギやコサギ、採餌飛翔するトビが確認された。
- 外来種は確認されなかった (表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種は、カワウであった。船上センサスでは、両島で合計 290 個体 (表 5)、ラインセンサスでは、両島で合計 80 個体が確認され、優占度は東島で 48%、西島では 76% を占めた (表 6)。また、定点観察調査では、両島で合計 160 個体が確認され、優占度は各地点 45~84% を占めた (表 7)。両島ともに広葉樹林や護岸で休息する個体が多く見られた一方で、繁殖活動中の個体や巣内ビナは観察されず、今季の繁殖は終了したと考えられる。両島の護岸や東島の砂地では、前回の春季調査に続き、今年巣立った幼鳥の群れが確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種は、ムクドリであった。船上センサスでは、西島で合計 27 個体 (表 5)、ラインセンサスでは、西島で合計 5 個体 (表 6)、定点観察調査では、東島で合計 8 個体 (表 7) が確認された。両島上空を飛翔する個体が多かったほか、西島の広葉樹林にとまる個体も確認された。
- 各調査手法のうち、確認個体数が比較的多かった種は、アオサギ、イソシギ、スズメであった。アオサギは、船上センサスにおいて両島で合計 13 個体 (表 5)、イソシギは、定点観察調査において両島で合計 6 個体 (表 7)、スズメはラインセンサスにおいて両島合計 7 個体 (表 6)、定点観察調査において両島合計 9 個体 (表 7) 確認された。アオサギやイソシギは、護岸や人工構造物で休息する個体が多く、東島では前回

の春季調査で初めて営巣が確認されたアオサギの巣上で成鳥 1 個体とヒナ 2 個体が確認された。東島ではアオサギの巣が 3 箇所を確認されており、残りの 2 箇所の繁殖状況は不明だが、巣立ち後の可能性がある。スズメは、広葉樹林で採餌する個体が多く見られ、東島ではサクラ類で採餌する個体やニイニイゼミを捕食する個体が確認された。また、西島では東側の商業施設方向に餌運びする個体が複数回観察されたことから、両島を採餌場所として利用していたと考えられる。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 8 回（前回調査）と第 9 回（今回調査）の確認種数は、第 8 回では東島で 16 種、西島で 21 種、合計 21 種、第 9 回では東島で 18 種、西島で 17 種、合計 18 種であった（表 8）。第 8 回及び第 9 回で確認された共通種は 17 種であり、第 8 回の確認種全体の約 8 割であったことから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 8 回で確認されず第 9 回で確認された種は、スズガモであった（表 8）。本種は、鳥の島では夏季以外の時期に確認される冬鳥であり、通常この時期は国外の繁殖地に滞在していることから、今回確認した個体は何らかのアクシデントにより渡りを中断し、鳥の島周辺で越冬していると考えられる。
- 第 8 回で確認され第 9 回で確認されなかった種は、オオタカ、ヒヨドリ、メジロ及びドバトの 4 種であった（表 8）。そのうち、オオタカは旅鳥であり、第 8 回では移動途中の個体が確認された可能性がある。ヒヨドリ、メジロ及びドバトは留鳥であり、ヒヨドリ及びドバトは第 9 回の秋季及び冬季調査で、メジロは春季調査で確認されている。また、第 7 回の夏季では、これら 3 種全て確認されていることから、今回調査では一時的に確認されなかったと考えられる。
- 第 8 回より第 9 回で個体数が増加した種は、カワウであった（表 9、10、11）。第 8 回より営巣数が増えており、繁殖の終了時期が第 8 回より早かったことから、繁殖活動を終えた成鳥や巣立った幼鳥の個体数が増加したと考えられる。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類4目4科4種、哺乳類2目2科3種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカルガモ、カワウ、アオサギ及びハシブトガラスの4種、哺乳類では推定ドブネズミ、推定クマネズミ及びハクビシンの3種が確認された。
- 自動撮影カメラにおいて、ハシブトガラス成鳥が幼鳥へ給餌する様子が複数回撮影された。旧防波堤では、これまで本種の営巣が確認されていないことから、周辺地域で繁殖した家族群が本島を採餌や休息場所として利用していると考えられる。また、カワウと推定クマネズミ（※尾の長さが頭胴長より長い姿が確認できたことから、推定クマネズミと同定¹。）を採食するアオサギやカワウの死骸を採食するハシブトガラスが撮影された。
- 特記事項として、リュウキュウツヤハナムグリ成虫1個体が東島のイタドリ群落内で確認された。本来は九州南部の佐多岬から南西諸島にかけて広く分布するが、近年では国内外来種として東京都の八丈島から本土部にまで分布を広げており、生態系への影響が懸念されている。東京都本土部では、2012年に大田区、品川区²、2018年に港区³で記録があり、分布が拡大していることから、今後も生息状況に留意する。そのほか、ニホンカナヘビが西島南側の高茎草地で確認された。本種は東京都の区部において絶滅危惧I類⁴に指定されている。

¹ 飯島正広・土屋公幸(2015) リス・ネズミハンドブック. 文一総合出版, 東京

² 酒井 香 (2015) 東京都本土部におけるリュウキュウツヤハナムグリの記録. 鯉角通信, 30:29-32

³ 野村周平・松原豊・山崎裕志・上田衛門・亀澤洋(2019) 国立科学博物館附属自然教育園(東京都港区白金)産甲虫類目録. 自然教育園報告, 51:37-71

⁴ 東京都環境局自然環境部(2021) 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～. 東京都環境局自然環境部, 東京

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期		重要種選定基準			
					夏季(7月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2			スズガモ	冬鳥	○					*②
3	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
4	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
5	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
6			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
7			コサギ	留鳥	○	○				VU
8	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○	○				CR
9		シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
10		カモメ	ウミネコ	留鳥	○	○				*①
11	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
12	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
13		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
14		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○				
15		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○				
16		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
17		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
18		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○				
合計	7目	15科	18種	—	18種	17種	0種	0種	0種	7種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季(7月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	0	2
2			スズガモ	1	0	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	117	173	290
4	ペリカン	サギ	アオサギ	5	8	13
5	チドリ	シギ	イソシギ	3	3	6
6	タカ	タカ	トビ	0	1	1
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	0	1
8		ツバメ	ツバメ	1	0	1
9		ムクドリ	ムクドリ	0	27	27
10		スズメ	スズメ	3	3	6
合計	6 目	9 科	10 種	133		215
				8 種	6 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季(7月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カツオドリ	ウ	カワウ	10	48%	70	76%	80
2	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	5	5%	5
3			コサギ	1	5%	0	0%	1
4	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	1	1%	1
5		カモメ	ウミネコ	0	0%	2	2%	2
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	14%	3	3%	6
7		シジュウカラ	シジュウカラ	2	10%	0	0%	2
8		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	5	5%	5
9		スズメ	スズメ	4	19%	3	3%	7
10		アトリ	カワラヒワ	1	5%	3	3%	4
合計	4 目	9 科	10 種	21		92		113
				6 種	8 種	10 種		

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				夏季(7月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1
2	カツオドリ	ウ	カワウ	62	84%	15	45%	41	84%	42	84%	160
3	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	0	0%	1	2%	3	6%	4
4			ダイサギ	1	1%	0	0%	1	2%	1	2%	3
5			コサギ	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	1
6	チドリ	シギ	イソシギ	1	1%	2	6%	3	6%	0	0%	6
7		カモメ	ウミネコ	0	0%	1	3%	1	2%	3	6%	5
8	タカ	タカ	トビ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1
9	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	1
10		シジュウカラ	シジュウカラ	2	3%	0	0%	1	2%	0	0%	3
11		ツバメ	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
12		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	8	24%	0	0%	0	0%	8
13		スズメ	スズメ	4	5%	4	12%	1	2%	0	0%	9
14		アトリ	カワラヒワ	2	3%	1	3%	0	0%	0	0%	3
合計	6 目	12 科	14 種	74	100%	33	100%	49	100%	50	100%	206
				8 種		8 種		7 種		5 種		14 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)			
		第8回(R4~R5)		第9回(R5~R6)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	スズガモ			○	
3	キジバト	○	○	○	○
4	カワウ	○	○	○	○
5	アオサギ	○	○	○	○
6	ダイサギ	○	○	○	○
7	コサギ	○	○	○	○
8	コチドリ		○	○	○
9	イソシギ	○	○	○	○
10	ウミネコ	○	○	○	○
11	トビ	○	○	○	○
12	オオタカ		○		
13	ハシブトガラス	○	○	○	○
14	シジュウカラ	○	○	○	○
15	ツバメ	○	○	○	○
16	ヒヨドリ	○	○		
17	メジロ		○		
18	ムクドリ	○	○	○	○
19	スズメ	○	○	○	○
20	ハクセキレイ	○	○	○	○
21	カワラヒワ		○	○	○
22	ドバト		○		
合計	22 種	16 種	21 種	18 種	17 種
		21 種		18 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)			
		第8回(R4~R5)		第9回(R5~R6)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	7	0	2	0
2	スズガモ	0	0	1	0
3	キジバト	1	0	0	0
4	カワウ	107	88	117	173
5	アオサギ	13	6	5	8
6	ダイサギ	1	1	0	0
7	コサギ	1	0	0	0
8	イソシギ	1	3	3	3
9	ウミネコ	0	2	0	0
10	トビ	0	1	0	1
11	ハシブトガラス	2	0	1	0
12	シジュウカラ	3	2	0	0
13	ツバメ	0	0	1	0
14	ヒヨドリ	0	2	0	0
15	ムクドリ	0	0	0	27
16	スズメ	0	0	3	3
17	ハクセキレイ	0	1	0	0
合計個体数		136	106	133	215
合計島別種数		9種	9種	8種	6種
合計種数		13種		10種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		夏季(7月)							
		第8回(R4~R5)				第9回(R5~R6)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	2	8%	0	0%	0	0%
2	カワウ	0	0%	9	38%	10	48%	70	76%
3	アオサギ	0	0%	1	4%	0	0%	5	5%
4	コサギ	1	17%	2	8%	1	5%	0	0%
5	コチドリ	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
6	イソシギ	1	17%	3	13%	0	0%	1	1%
7	ウミネコ	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
8	オオタカ	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
9	ハシブトガラス	2	33%	0	0%	3	14%	3	3%
10	シジュウカラ	0	0%	0	0%	2	10%	0	0%
11	ツバメ	0	0%	3	13%	0	0%	0	0%
12	ヒヨドリ	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
13	メジロ	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
14	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	5	5%
15	スズメ	2	33%	0	0%	4	19%	3	3%
16	カワラヒワ	0	0%	0	0%	1	5%	3	3%
合計	16種	6	100%	24	100%	21	100%	92	100%
		4種		10種		6種		8種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		夏季(7月)															
		第8回(R4~R5)								第9回(R5~R6)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度		
1	カルガモ	1	9%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	キジバト	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
3	カワウ	0	0%	0	0%	19	63%	23	68%	62	84%	15	45%	41	84%	42	84%
4	アオサギ	2	18%	1	8%	1	3%	3	9%	0	0%	0	0%	1	2%	3	6%
5	ダイサギ	0	0%	1	8%	1	3%	1	3%	1	1%	0	0%	1	2%	1	2%
6	コサギ	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
7	コチドリ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8	イソシギ	1	9%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	2	6%	3	6%	0	0%
9	ウミネコ	0	0%	1	8%	0	0%	2	6%	0	0%	1	3%	1	2%	3	6%
10	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
11	ハシブトガラス	2	18%	0	0%	1	3%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
12	シジュウカラ	1	9%	7	54%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	1	2%	0	0%
13	ツバメ	0	0%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
14	ヒヨドリ	1	9%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
15	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	8	24%	0	0%	0	0%
16	スズメ	1	9%	0	0%	3	10%	2	6%	4	5%	4	12%	1	2%	0	0%
17	ハクセキレイ	1	9%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	カワラヒワ	0	0%	0	0%	2	7%	0	0%	2	3%	1	3%	0	0%	0	0%
19	ドバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	19種	11	100%	13	100%	30	100%	34	100%	74	100%	33	100%	49	100%	50	100%
		9種		7種		9種		7種		8種		8種		7種		5種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○			
2	ヒドリガモ									○	○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○				
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○
6	オナガガモ				○	○	○			○			
7	コガモ							○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○	
9	キンクロハジロ										○		
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ												
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○
13	カイツブリ												
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ			○									○
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ					○							
20	ササゴイ		○										
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	チュウサギ									○			
24	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	カッコウ科の一種											○	
27	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○	
28	ヤマシギ												●
29	タシギ								○				
30	チュウシャクシギ												
31	キアシシギ									○			
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ					○	○						
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	カモメ	○	○			○							
37	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○	
39	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○				
40	ミサゴ	○		○			○		○		○	○	
41	ハチクマ	○											
42	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	ハイタカ		○		○					○			
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 6 回)

No.	種名	調査時期											
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○
46	オオコノハズク												
47	カワセミ			○			○			○		○	
48	チョウゲンボウ		○				○	○					
49	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○				
50	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○		
51	カケス				○								
52	オナガ			○	○	○	○			○			
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ヤマガラ												○
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヒバリ						○						
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
60	オオムシクイ								○				○
61	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
62	オオヨシキリ			○		○				○	○	○	
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
64	コムクドリ				○	○							
65	シロハラ	○	○	○	○						●		○
66	アカハラ	○			○			○			○		
67	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○
70	キビタキ	○				○							
71	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ			○									
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	セグロセキレイ				○								○
75	タヒバリ						○				○		
76	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	シメ							○				○	
78	ホオジロ	○		○	○			○		○			
79	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	オオジュリン			○						○			
81	ドバト	○	○					○			○	○	○
合計	81 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種	

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期					
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ						
2	ヒドリガモ		○				○
3	マガモ						
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ	○	○				
6	オナガガモ	○					
7	コガモ	○				○	○
8	ホシハジロ		○	○	○	○	
9	キンクロハジロ						
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ	○					
12	ウミアイサ	○		○	○	○	○
13	カイツブリ			○		○	
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ						
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○	
17	キジバト	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ						
20	ササゴイ						
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	
23	チュウサギ						
24	コサギ	○	○	○	○	○	○
25	オオバン	○	○	○	○	○	○
26	カッコウ科の一種						
27	コチドリ	○	○	○	○	○	○
28	ヤマシギ						
29	タシギ						
30	チュウシャクシギ		○				○
31	キアシシギ						
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ		○				○
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○
36	カモメ						
37	セグロカモメ	○	○	○	○		○
38	オオセグロカモメ	○	○				
39	コアジサシ						
40	ミサゴ						
41	ハチクマ						
42	トビ	○	○	○	○	○	○
43	ハイタカ					○	
44	オオタカ		●		○	○	○

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 7 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期					
		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	ノスリ	○	○		○	○	○
46	オオコノハズク		●				
47	カワセミ	○					
48	チョウゲンボウ				○		
49	ハヤブサ		○				○
50	モズ	○					
51	カケス					○	
52	オナガ						
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
54	ヤマガラ						
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○
56	ヒバリ						
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○
59	ウグイス	○	○		○		
60	オオムシクイ						
61	メジロ	○	○	○	○	○	
62	オオヨシキリ					○	
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○
64	コムクドリ						
65	シロハラ	○	○		○		●
66	アカハラ				●		○
67	ツグミ	○		○	○	○	○
68	ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○
69	イソヒヨドリ	○	○	○	○		○
70	キビタキ						
71	スズメ	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ						
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○
74	セグロセキレイ						
75	タヒバリ						
76	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○
77	シメ						
78	ホオジロ			○			
79	アオジ	○	○	○	○	○	○
80	オオジュリン						
81	ドバト	○	○	○	○	○	○
合計	81 種	41 種	41 種	34 種	38 種	37 種	37 種
		48 種		40 種		45 種	

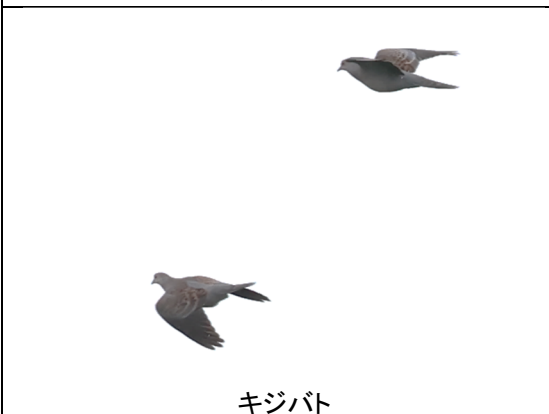
注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



カルガモ



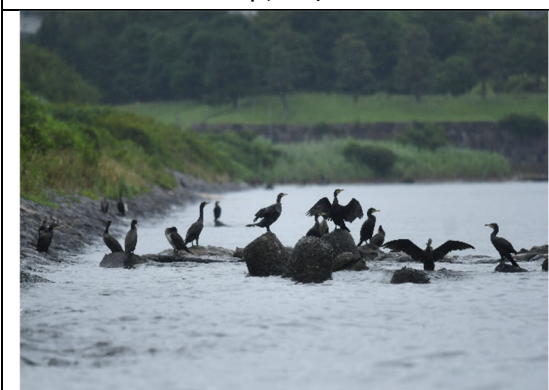
スズガモ(重要種)



キジバト



カワウ



カワウ(休息する成鳥及び幼鳥)



アオサギ



アオサギ(巣上で育雛中)



アオサギ(巣内ビナ)

写真 2(1) 確認された主な鳥類



コチドリ(重要種)



イソシギ(重要種)



ウミネコ(重要種)



トビ(重要種)



ハクセキレイ



カワラヒワ

写真 2(2) 確認された主な鳥類



写真3 自動撮影カメラで確認された生き物



リュウキュウツヤハナムグリ

写真4 確認された主な生き物